

第四十二回 「全日本中学生水の作文コンクール」

広島県優秀作文集

令和二年 広島県土木建築局

目次

優秀賞

「雨水」の可能性

広島叡智学園中学校

二年

木本佳宏

使うからこそ守る「水」

広島叡智学園中学校

二年

野島由衣

水のふるさとを守る

美鈴が丘中学校

二年

當具里菜

入選

水について思うこと

AICJ中学校

一年

丸山祐希菜

水で手を洗えるということ

広島叡智学園中学校

二年

黒木碧恵

台湾の人々に生命を宿らせた水

広島叡智学園中学校

二年

松室美胡

水と世界の未来

広島叡智学園中学校

二年

槇山千慧

蛇口をひねれば

広島叡智学園中学校

二年

野元セイラ

水と共に生きるため

美鈴が丘中学校

二年

御池修太

「水の大切さ」

美鈴が丘中学校

二年

澤田朋佳

優 秀 賞

「雨水」の可能性

広島県立広島叡智学園中学校 二年 木本 佳宏

雨。それは水の循環において、なくてはならないものです。しかし雨は、時に人の命を脅かすこともあります。そんな雨について、考えたことがあるので、紹介します。

ある日、ぼくがテレビを見ていて思いました。

「ウォーター 슬라이ダーに使う水の量って、たくさんあるのだろうな」と。そこで、自分は実際にどれくらいの水の量が流れているのかが気になり、実際に実験してみることができました。使ったのはほぼ一メートルの半分に切った太めの竹と、お風呂によく浮いているアヒルのおもちゃを利用して実験を行いました。竹の角度は、アヒルが前に倒れない限界まで角度を上げて、水はホースで流すようにしました。その結果、アヒルを上から下まで流す水の量は、約二リットルだということが分かりました。これを百メートルのウォーター 슬라이ダーに単純計算で換算すると、約二百リットルを使うと分かります。一日に数千人が利用するウォーター 슬라이ダーですから、その数千倍の量の水が必要になってくるということが予想できます。

そんな大量の水を消費するウォーター 슬라이ダーでは、多くの水資源を無駄にしています。そこで、今ある水資源を有効的に使うために、自分はそのウォーター 슬라이ダーに使う水を雨水に変えるべきだと考えました。具体的には、雨水を溜めることのできるタンク等を設置し、そのタンクに溜まった雨水をメインの水として利用し、足りなくなってきたときは、水道水を使うというシステムにすることで、水資源を大切にしつつ、娯楽を提供することができるのではないかと考えました。実際にこの雨水を活用するという活動は、マツタースームスームスタジアムでも利用されていて、スタジアムのフィールドに降った雨水をトイレ用水として利用しています。

僕は、このシステムを利用することにより、二つの利点があると考えました。まず一つ目は、水にかかる費用を減らすことができるということです。今まで大量の水を使用していたため、その分たくさん費用がかかっていたと推測されますが、その分の費用を削減できるため、経済的に良い影響があると言えます。二つ目は、災害が起きた時など緊急時には、タンクに溜まっていた水を生活用水として利用することができます。災害時には災害避難場所としても活用することができます。実際に東日本大震災などの大きな災害では、水不足が深刻となり、飲料水やトイレの水が足りなくなるといったことがありました。雨水を活用することは、この問題を解決する一つの手段ともなり得るのです。

このように雨水にはたくさん可能性があるのです。今回はウォーター 슬라이ダーというフィルターを利用して考えましたが、雨水はこのような場面以外でも活用することができると思います。なので、僕は雨水の活用方をこれからも考えていきたいと思います。

優 秀 賞

使うからこそ守る「水」

広島県立広島叡智学園中学校 二年 野島 由衣

みなさんは、水が無い生活をしたことがありますか。今は、蛇口をひねったら簡単に安全な綺麗な水が手に入りますが、私が水の無い生活をしたのは昨年の夏頃のことです。

昨年の夏頃に私の地元は、歴史的豪雨におそわれました。その影響で、道路には水があふれ、川は今まで見たことのないくらいの水量に達していました。そんな中、断水で家庭に水が入らなくなりました。私の家でも水道の水が止まり、蛇口からも水が出なくなり、多くのことが簡単に出来なくなりました。水が蛇口から出ない生活は思った以上に不便でした。水は、食器洗いや飲み水、手洗い、洗濯、風呂、トイレなどの多くの場面で使われているからです。水をくみに行くのにも時間がかかるため、水を節約するために食器にラップを貼って食べ洗わなくても良いように工夫したりしていました。お風呂にも入れないため海上自衛隊の護衛艦の浴場無料開放に行っていました。この「断水」の経験から、水はなければ生活に支障が出るくらい大切で、簡単に手に入ることは「当たり前」ではないことを学びました。

今、こうやって簡単に水が手に入っているのは水道があるからこそだと思います。

気になって調べてみると、日本人の一日の水の使用量は約二百八十九リットルです。私が予想している量よりも多い量が使われていたため、とてもおどろきました。こんなにも多くの水が使われていたのなら、水が無い生活が不便であることも納得できます。ヨーロッパでも、水の使用量は百五十リットルくらいであることから、ヨーロッパと比べても明らかに日本人は多くの水を使っていることが分かります。このデータから見ても、もっと日本人は節水を心がけ、水の使用量を減らす必要があるのではないのでしょうか。

皆さんは、水をどれだけ節水していますか。

私は、水はあって当たり前のものでなく限られた地球の資源としてもっと大切にしていくなきゃだと思えます。水は一人一人の行動で大切にしていくなきゃ節水することができると思えます。例えば、食器を洗うとき洗剤をつけすぎないようにすることで、洗い流す洗剤の量を減らし、洗剤を流すための水の量を減らしたり、お風呂の浴槽の残り湯を洗濯に使うことで水の再利用をし、水の使用量を減らしたり、多くの工夫をすることが出来ます。

私はこれから、もっと水が簡単に手に入ることは当たり前ではなくありがたいことであることを思い出しながら節水を心がけていこうと思います。そして、自分が経験した水の無い生活をみんなに伝えていきたいです。

水のふるさとを守る

広島市立美鈴が丘中学校 二年 當眞 里菜

私達は日々水を飲んで生活している。人間の体内にある水分は、体重の半分以上を占めており、酸素や栄養分を体内に運んだり、汗をだして体温を一定に保ったりなど、体の中で様々な役割を果たしている。だから、こまめに水分をとらないと、水分不足になって体調を崩してしまいます。人間が生きていく上で、水は必要不可欠なのだ。

私達が毎日利用している水道は、安全でおいしい水を届けてくれる。広島市の水道水のほとんどは「太田川」の水から作られ、その水質は「名水百選」に選ばれるほどきれいだそう。太田川の水はなぜきれいなだろう。その理由について調べてみた。

太田川の源である冠山には「太田川源流の森」というところがある。ここにある森林は、「緑のダム」と呼ばれているそう。森林の地表は、落ち葉や木の枝などを微生物が分解して、小さなすき間のあるフカフカでスポンジのような状態になっている。山に降った雨は地面にしみ込み、この緑のダムに蓄えられる。緑のダムには、フィルターのように入りの汚れをこし取ってくれるはたらきがある。そのため、水は森林の土の層を取っていく間に、ろ過されてきれいになるのだ。さらに、緑のダムに蓄えられた水はゆっくりと時間をかけて流れ出るため、洪水や濁水を緩和する役割もある。太田川の源流について調べて、太田川の水がきれいなのは、豊かな森林があるからだということが分かった。

しかし、住宅地などの開発や道路整備により森林が伐採されると、緑のダムによる保水能力はなくなってしまふ。私の住んでいるところの近くで、広範囲に森林が伐採され、大型ショッピングセンターなどが造られた。近くにお店があるのとても魅力的なことだが、緑のダムがなくなってしまうと、雨水が蓄えられずに水が一気に地表に流れてしまうので、災害につながりかねない。最近では異常気象によるゲリラ豪雨で土砂災害が相次ぎ、深刻な問題になっている。人間にとって大切な水を育

んでくれる豊かな森林を維持するために、私達にできることは何だろうか。

私は、自然についてたくさんの方が関心を持つことが大事だと思う。山でキャンプやハイキングをして自然とふれ合えば、多くの人が自然のすばらしさを感じ、自然の大切さを実感することだろう。そして、山ではゴミは必ず持ち帰り、一人ひとりが山を汚さないように気を付け、さらに不用意に植物を抜いたり切ったりしないようにするだけでも、緑を維持することは可能だろう。また、緑のダムについて学んだり、森林保護活動に参加して、みんなが一緒になって木の苗を植えるなどの植樹に参加することもできるだろう。さらに森林保護のために、植樹で育った人工林で伐採された木材や間伐材を積極的に利用したり、再生紙を使った商品を利用するように心がけることも、緑のダムを守り、豊かな森林を維持することにつながるのではないかと思う。

私達の生活に欠かせない水。これからも安全でおいしい水を飲み続けるためには、水のふるさとである森林を大切にしなければならぬ。一人ひとりが環境保全を意識した生活を心掛け、小さなことから実践していくことが大事だと思う。

水について思うこと

A I C J 中学校 一年 丸山 祐希菜

私達は、いつも無意識に水を使っている。料理、風呂、掃除など様々だ。水のおかげで、昔に比べると生活が楽になった。だがその反面、世界には安全な水を確保できない人が何億人という。

日本では水はどこでも利用できる。蛇口をひねれば透明な水が出てくることはあたりまえだ。だが、前述した通り世界では安全な水を利用できない人がおり、汚染された水を飲んで、年間三十万人もの人が亡くなっているそうだ。汚染された水の中にはゴミや泥、病原菌や寄生虫などが混ざっている。またトイレなどの衛生用品を、利用することができない人が二十四億人もいるらしい。水質汚染や水不足の主な原因となるのは、人口が増加しそれとともに工業や農業に使う水が増えてしまったということ。地球温暖化が原因で気候が変化し、水が干上がってしまったということ、また水温が高くなることによって、プランクトンや有害物質が大量に発生しまったということが挙げられる。近い未来、日本でもこのような状況になるかもしれないと思うと恐ろしい。

そもそも、水質汚染が始まったのは、ここ最近のことではない。例えば日本では、富山県ではカドミウムが川に流出して起こった、イタイイタイ病、熊本・新潟県では川や海にメチル水銀が流出して起こった水俣病などが発生している。これらは、人間が自分で作り出してしまった災難である。人間の「別に少しくらい流してもいい」「水を汚しても利益があればいい」という身勝手な考え方が自らの首をしめた結果だと思う。私達の生活が豊かになっていく反面、汚染された水を飲んで亡くなつてゆく人、水が不足し普通の生活を過ごすことができない人がいた。こんなことが起こる中、水の無駄遣いや、水を汚したりすることがあたりまえとなっている。これは決して許されることではない。このようなことがさらに悪化しないようにするためには水道代を高くするなどしてみてはどうだろうか。水にも限りがある。水道代を高くし、水の価値を

理解してもらおうことで、水を大切に使用するようになるのではないだろうか。また、企業も汚水を出さないようにすることが必要だ。汚水を出さない取り組みをしている企業には税金を安くするなど取り組みも良いと思う。私自身も油などを流さないようにしたり、水の無駄遣いしないようにしている。しかし、私自身もまだいろんなことを学んできれいな水を守れるような人になりたい。

入選

水で手を洗えるということ

広島県立広島叡智学園中学校 二年 黒木 碧恵

二〇二〇年、新型コロナウイルスが世界中で大流行し、パンデミックを引き起こしました。流行を防ごうと、日本全国の学校が突然の休校になり、卒業式すらも十分にできない状態になりました。不要不急の外出自粛により、楽しみにしていた春休みの旅行にも行けません。さらには、日本国民が楽しみにしている東京オリンピックも予定通り開催されるかどうか不明になっています。経済も大打撃を受けています。父母は、こんなことは初めてだと言ってショックを受けていました。

この新型コロナウイルスに対する特效薬は、まだ開発されていないそうです。今の私達にできることは、とにかく予防をすることしかありません。そしてその予防方法は、マスクをつけたり、うがいをしたりはもちろんですが、何より大事なものは、手洗いをしっかりとウイルスを洗い流すことなのです。

広島県にも感染者が出たというニュースを聞き、ますます予防しなくてはいけないと思っていた時、私はあるニュースを見ました。それは、コロナセフによると「世界の人口の四十パーセントの三十億人が、石けん

で手を洗える設備のない環境で生活している」ということです。コロナウイルスはますます世界中に広がり多数の死者が出ているというのに、基本的な衛生環境で生活できているのは、世界人口の五分の三だけということになるのです。日本に住んでいる私の生活からは考えられないこの事実に衝撃を受けました。もしも、衛生環境が整っていない国の生活の中にコロナウイルスが入り込んでしまったなら……私はいったいどれだけの犠牲者が出るのかと怖くなりました。

日本は水の豊かな国で、様々な技術も医療も発達している先進国です。蛇口を捻れば水が出るのが当たり前となっています。私達は、いつものように手を洗い、うがいをする生活ができています。でも、その当たり前の生活は、世界から見ると当たり前ではないというのです。

水に恵まれた衛生的な環境で過ごすことができる人は、少ないのだと気づきました。

水は、主食である米や野菜を栽培し、風呂やトイレ、洗濯等、日々の生活も支えてくれているのです。つまり私達にとって水は生命の源であり、生活を助けてくれる重要な存在なのです。

しかし、世界にはその水を手に入れるために容器を担いで遠くまで水汲みに行かなければならない子供がいます。とても重い水を、私くらいの子供が一生懸命に運んでいる写真を見ると、生活の違いに驚きます。生きるための飲み水だけでも精一杯で、手洗いのために使える十分な水はありません。汲んできた水ですら、決して衛生的な水ではないのです。日本ではどうでしょうか。水がある環境を当たり前に感じて、水を流しっぱなしにしたり、沢山の排水やプラスチック等のゴミで川や海を汚したり……。私達にはもっと、水へのありがたさを感じて生活する精神が必要だと思います。

私達の生活に当たり前となっている「水」。それは、大切な資源であり、命を守ってくれるものです。私達の支えとなり、助けとなる水に感謝し、「当たり前ではない」ということを意識しながら、使っていくように思います。

入選

台湾の人々に生命を宿らせた水

広島県立広島叡智学園中学校 二年 松室 美胡

皆さんは八田與一という人物を知っているだろうか。八田與一は台湾でダムを作った日本人の土木技師だ。私は小学校生活を台湾で送り、学校の授業で八田與一について学んだ。

舞台は台湾の台南市にある嘉南平野。当時、そこは雨季には大量の雨による洪水、乾季には水不足による干ばつに悩まされた、まさに荒れ果てた土地そのものだった。そのため、農作物が取れず人々は食料不足の危機に直面していた。当時の台湾は日本に統治されており、日本は台湾の農業強化に努めていた。そんな時、八田與一は土木技師として嘉南平野の大規模なかんがい事業を任された。八田與一はダムを建設すれば、洪水も干ばつも解消できると考え、十年の長い年月をかけて、巨大ダムの建設を行った。八田與一が建てたダムは鳥山頭という場所に建てられたことから鳥山頭ダムと呼ばれ、何も育たなかった荒地を台湾最大の穀倉地帯へと変えた。平野全体に水を行き渡らせ、一年中作物を育てることを可能にした鳥山頭ダムは台湾の人々の生活を一変させた。私はそんな、鳥山頭ダムの見学に小学六年生の修学旅行で実際に行くことができた。修学旅行の前から事前学習として、八田與一の功績や鳥山頭ダムについては学習していたが、実際にダムを目の当たりにすると、その迫力に驚いたのを覚えている。放水口から流れ出る水は生き生きとしていて、引率してくださった先生が何度も写真を撮っては、その流れ出る水に感動していた。この水が嘉南平野を生まれ変えさせたんだ、そう思いながら私は友達とダムを眺めていた。今思い返すと、ダムの周りは緑が溢れていて、かつて作物が育たなかった地とは思えなかった。八田與一の功績は現地の中学校の教科書でも紹介されていた。以前、台湾人の友達に八田與一さんのことを知っているかと聞いた時、彼女達は迷うこともなく、「もちろん知っているよ。」と答えていた。さらに、多くの台湾人が八田與一に対して好意を持っていることも教えてくれた。また、第二

次世界大戦の末期、金属の提供が求められた際に多くの銅像が壊されていく中、八田與一の銅像は地元の人々が密かに倉庫で保管していた、というエピソードも聞いたことがある。このエピソードや私の友達の話から、八田與一は台湾の人々に愛され、そして彼が建設した鳥山頭ダムは大いに感謝されていたことが分かった。

では、一体なぜ八田與一はここまで台湾の人々に感謝されているのだろうか。それはもちろん彼の人望も大きな理由の一つだが、やはり私は彼が「水」という私達の生活に無くてはならない物に着眼した事業を行ったからだと考えた。水が無ければ飲料がなく生きていけない、水が無ければ料理を作ることだってできない。また、水が無ければ私たちは健康的な体を作ることだってできない。今は蛇口をひねると水が出る時代になったが、今からちょうど百年前の嘉南平野ではダム建設の工事が始まったばかりであった。そして、今なお水が近くにない環境で暮らしている人々がいる、ということも忘れてはいけない。そう、決して簡単に水を得ることができるのは当たり前のことではないのだから。だからこそ、今の現状に有り難みを感じ、感謝しながら水を大切に使う、それこそが今私たちにできること、そしてすべきことではないだろうか。

水と世界の未来

広島県立広島叡智学園中学校 二年 横山 千慧

私たちにとって、生きていく上で水は必要不可欠なものです。飲み水をして必要ですし、洗濯、トイレ、シャワーなど、生活のありとあらゆる場面で、水は必要になってきます。ですが、それほど重要な水を満足に手に入れられない人が、世界には多くいるのです。

それを改めて実感したのは、中学一年生の社会の授業のときでした。それ以前にも、水を満足に手に入れられない人がいるのは知っていましたが、それは自分の生活からあまりにもかけ離れていて、それは、遠い国の自分には全く関係のない人たちの話だと感じていたのです。ですが、具体的な数と、水不足に苦しむ人達の生活をくわしく知ることによって、それは一気に実感の伴ったものになりました。

世界では、六億六千万人以上の人が水不足に苦しんでいます。また、水を得るために多くの女性や子ども達が、長い時間をかけて汲みに行っています。それでも手に入るのは汚れた水だけで、その影響で一日に八百人もの子ども達が命を落としています。また、水汲みにつかれた子ども達は勉強する時間もまま一日を終えてしまいます。水不足は、多くの子ども達の未来を奪うのです。水不足は、その人、その国だけでなく、世界的に見てもとても深刻な問題なのです。

私達日本人にとって、水はさして貴重ではないのかもしれない。蛇口をひねればきれいで安全な水が出てくるのは当たり前のことなのでしよう。ですが、それが当たり前でない人達が、この世界にはたくさんいます。私達が何気なく使っている水があるだけで救われる命がたくさんあるのです。

世界各国で、この深刻な水不足に対して様々な活動が行われています。国連が二〇一五年に定めたSDGsにも、この水不足についての項目が組み込まれています。また、ユニセフなどの団体も、多くの地域で水不足の改善に努めています。世界が水不足の問題に対して動き出している

のです。

そして、世界の水不足に対して、私達も無関係ではならないのだと思います。私達が何気なく使っているこの水があるだけで救える命があるのです。私達が使っているこの水で、少しでも多くの人を救うために、節水という方法があります。直接的なものではありませんが、間接的に、水不足を緩和することにつながるのではないのでしょうか。

節水、と聞くだけではあまりに抽象的で実行しにくいかもしれませんが、そこで私は、今日からでも実行できるように、具体的な行動を三つ考えました。まず、手を洗うときには一度水を止めて洗うこと。二つ目は、水を出すときには量を加減すること。三つ目はトイレの大と小を使い分けること。これらはとても小さなことですが、継続するのは難しいかもしれませんが、私達が節約したほんの少しの水が、六億人の未来につながるのです。そう思うと、それも続けていけるのではないのでしょうか。

また、水の汚染を防ぎ、きれいにすることで、水不足に苦しむ人達のもとへよりきれいで安全な水を届けることにもつながります。私の学校では、昨年度、計三回の海岸清掃を実施しました。今年度も継続して実施し、海岸や水をきれいにしていきたいです。

これらの対策は、一つ一つはとても小さなことです。ですが、だからこそ、それらが多くの人に広がることによってとても大きな効果を発揮します。

世界全体が大きな転換期に差しかかっている今こそ、水不足の問題、そしてその未来について考え、私たちの生活を見直していくべき時なのではないのでしょうか。

入選

蛇口をひねれば

広島県立広島叡智学園中学校 二年 野元 セイラ

今、私たちは蛇口をひねればいつでも水を手に入れることができます。透き通ったきれいな水はトイレや飲み水など、日常のいろいろなことに用いられる、私たちには欠かせない存在です。しかしそれは世界共通の事実なのでしょうか。

日本ユニセフ協会は「今、安全な水を手に入れられない人は、世界で六億六三〇〇万人」と述べています。また、池や川、整備されていない井戸から水を汲んでいるという事実がアフリカ諸国ではあります。さらにそれらの水汲みの作業は子どもたちの仕事とされています。その子どもたちの数は三三〇万人を超えていると、同じく日本ユニセフ協会では公表されています。子どもたちの汲む水は、私たちの想像をする透き通った水とは大きく違ってきます。飲用に適さないような水に頼っているのです。それらの水は、泥、細菌などが混ざった危険な水です。この水が要因である病気から命を落とす子どもも年間三〇万人とされています。水汲みのために学校に通うことができない子どもたちはたくさんいるのです。現在感染が拡大されているコロナウイルスも、この水がないという環境から、手洗いやうがいを十分にできず、対策を行うことができないという現状もあります。

このような問題のなかで、私たちはどうすればいいのでしょうか。ウォーターエイドという団体は、自然流下方式と呼ばれる、パイプを用いた仕組みで、十三キロメートルに及ぶ水を運ぶためのパイプを設置する作業を現地の人々と協力し行ないました。これによって、きれいな水が届くようになり、毎日水を汲むことに時間を費やしていた子どもたちも学校に通ったり、好きなことに費やしたりできるようになりました。私はこのように、現地の人々と協力をして作業をして、少しでも毎日水汲みに時間を費やさなければならぬ子どもたちや、飲用に適さない水を飲んで病気にかかったり、亡くなってしまうりする子どもたちが笑顔

になれるような活動をしたと思っています。

日頃から自分たちの周りの当たり前なことに目を向けて、そうではない国や人々がいることを知り、理解をすることが大切だと思います。そこからどう動くかを考えて、行動を起こしていきたいです。また、きれいな水が今日も蛇口をひねれば流れてくるといふ幸せな事実を、当たり前だと思わずに、感謝をして生活をしていきたいです。

入選

水と共に生きるため

広島市立美鈴が丘中学校 二年 御池 修太

僕たちは、日常の生活の中で水を当たり前のように使います。それを当然のことだと思っても良いのでしょうか。

僕たちは蛇口をひねるだけで簡単に水を手に入れることが出来ます。しかし、僕は以前テレビで、ある外国では水を蛇口から簡単に手に入れることが出来ず、険しい道のりを数十キロも、水をくみに行く生活しているところがありました。そのことを知って、僕たちが蛇口から水を簡単に手に入れられることはその国の人にとって夢のようなことなんだと思います。

また、地震や津波などの自然災害も、その影響で水道の水が止まり、水を手に入れることが出来なくなります。東日本大震災では、給水車に行列が出来ているをテレビで見ました。僕は水がない生活を経験したことがないけれど、飲み水がなかったり、お風呂に入れなかったり、料理が出来なかったり、トイレが流せなかったり、考えたら様々なことが日常の中で出来なくなることがあり、どのように生活したら良いのだろうかと思いました。

だから、日常の生活から水を大切にしておく必要があります。僕は水を大切にするために日常生活の中で出来ることはないかと考えてみました。一つ目は、シャワーをこまめに止めたり、炊事のときに水を出したままにしないことなどの水の使いすぎを減らしていくことです。二つ目は、お風呂の水を使ってそのまま捨てずに洗濯に使ったりして、水をすぐ捨てずに再利用することです。水の使いすぎを減らしたり、再利用するなどの節水を心がけることが僕たちに出来る水と共に生きていくための大切なことだと思います。他にも、水の入手が困難な国に水を届ける活動に参加したり、自然災害が起こる前に事前に水を備蓄しておくことも僕たちに出来ることだと思います。

僕たちは普段、水を使っています。しかし、突然の自然災害などによ

って、水道が止まって、水が普段のように使えなくなるときがあるかもしれない。だから、普段から水を大切に使う、僕たちに出来るシャワーをこまめに止めたり、母の手伝いで皿洗いをするときに使いきないように心がけたりすることを進んでいきたいと思います。他にも、僕たちが水を大切にするために出来ることや節水が出来ることを探して、それを積極的に取り組みたいと思います。水を大切に思い、大切に使う。節水をする。それが水と共に生きるために僕たちが出来ることだと思います。

入選

「水の大切さ」

広島市立美鈴が丘中学校 二年 澤田 朋佳

「私達は大切に水を使わなければいけません。」これは当たり前のことですが、このことをあたり前と思っていない人がこの世の中にはいるかもしれません。でも、私達人間や動物などの生き物は、水がないと生きていけません。そこで私は、水の大切さを知るために2つのことについて調べてみることにしました。1つ目は、水がなくて困っている人についてです。理由は、普段私たちが使っている水がどれだけ貴重なのかを確認したいからです。2つ目は、水不足は解消できるのかということです。理由は、水不足に近づきつつある地球は、何年保つことがきるのかを知りたいからです。

まずは、1つ目の水がなくて困っている人について調べました。1番最初に目に止まったのは私と同じ年くらいのある女の子の作文でした。短い文章でしたが、「命がけて砂漠を1日中歩き水をくむ」という文が私の心に強くつきました。家族のために朝、早くから夕方近くまで水をくむけど、1人あたりわずか1リットルの茶色い水だけということ、近くに井戸ができれば人生が変わるということが書いてありました。私はその文章を何度も読みました。私たちが普段、何気に使っている水を、子どもたちが命がけて家族のために遠い場所から水を運ぶことに深く感動したからです。私はそのことが気になり、さらに詳しく調べてみました。多くの発展途上国では、水くみは子どもたちの仕事で、サハラ以南のアフリカ諸国だけでも330万人を超える子どもたちが毎日遠い道のりを歩き続けているそうです。こうして手に入れた水には多くの場合、泥や細菌、動物のふん尿などが混じった危険な水を浄水処理をしないまま飲むことによってたちまち下痢を起こして命を落とす子どもたちが、年間30万人、毎日800人以上にもなると書かれています。私達がご飯を食べているとき、テレビを見ているとき、遊んでいるときにも朝、早くから働いていて、その水を飲んで死んでしまっ

子がいることにとっても悲しくなりました。そう考えると水を出しっぱなしにしたり、用もないのに水を出すことは、この人たちにとってとても考えられないことです。私は、水の一滴一滴を無駄にしないことが私達に今できることだと思えます。

次に2つ目の水不足は解消できるのかということについて調べました。1人あたりの水分補給として1回のコップ1杯程度の量を1日6〜8回を補給したと考えた結果、2050年には、世界の10人に4人は水が得られなくなると予想されています。確かに今は人口も増えつつ、予想よりも速く水不足に近づくかもしれません。でもそれはあくまで予想であってそれが実際に起こるとは限りません。そこで私は、地球の7割が海水ならば、海水は飲みみずとして扱えるかという疑問をもち、調べてみることにしました。地球の7割が海水なら、水不足なんてありえないんじゃないかと思う方もいかもしれませんが、海水を飲むと塩分濃度によって細胞が脱水症状を起こし、体の様々な機能が低下し、死に繋がるとの恐れがあるからです。しかし、調べたところ、最近では海水から塩を除去する「パーペーパーイオン」と呼ばれる淡水化技術があるそうです。ですが、これによってすべての海水が飲み水として扱えるには、たくさんのお金の時間が必要になります。どの道、水不足がいつくるかは分かりませんが、技術だけに頼らず、人間の力だけでも、1年はのびしきれるのではないのでしょうか。

私は今、レバーを押すだけで清潔な水が出てきます。でも世界には、この今も水を求め命がけて歩きまわる子どもたちがいるのです。地球も水不足にせまりつつあります。この2つの問題を解決するには、自分に今、何ができるかを考えて、今からの行動を振り返ることではないでしょうか。